

2021 年度 慶應義塾大学 一般選抜

環境情報学部 小論文

問題解説

今回の小論文の作成意図は以下の通りです。慶應義塾大学 SFC はこれまでもこれからも未来をつくる人間を育てるキャンパスです。社会に対して幅広い関心と問題意識を持ち、単なる批判力ではなく、建設的な知性が集う場であってほしいと願っています。このようなキャンパスの理念を念頭に置いて、問題を作成しました。

問1では、数理的な素養の基礎（高校入学レベル）を確認しています。環境情報学部の学生には、当然のことながら数理的な基本知識を持っていることが期待されています。これからの時代において、定量的・抽象的な表現能力や判断力なしでは、環境情報学を身につけることはできません。問1への解答を出すことは、本学部の志願者には難しくないのであらうと考えます。

問2と問3は、冒頭で説明した意図に基づいて作成しています。

問2では、15の不条理を示すことが求められています。世の中に対して幅広い視野と課題認識を持っているかどうか問われています。日常的な報道を通して目や耳に入ってくる話題に満足せず、その先に潜んでいる課題を見通し、解決策にまで意識を向けられるかどうかを見ています。環境情報学部の学生にふさわしいのは、今までの人生の中で培われたはずの視点のユニークさだけでなく、思索の深さと視点の多様性を持つことです。

問3では、「具体的、定量的、かつビジュアル」な説明を求めています。その基準を満たしつつ、分析的かつ創造的に議論・表現・思考できるか、また論理的・分析的であるだけでなく、独自の着想を構築できるかという点を見ています。

以上